10 各教科の学習指導〔中学校〕

(1) 国語科

ア　教科の目標（解説Ｐ11）

> 言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
> (1) 社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
> (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。
> (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに，言語感覚を豊かにし，我が国の言語文化に関わり，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは，国語で表現された内容や事柄を正確に理解する資質・能力，国語を使って内容や事柄を適切に表現する資質・能力であるが，そのために必要となる国語の使い方を正確に理解する資質・能力，国語を適切に使う能力を含んだものである。「正確に理解」，「適切に表現」という順に示されているのは，表現する内容となる自分の考えを形成するためには国語で表現された様々な事物，経験，思い，考え等を理解することが必要であるためである。

イ　国語科における見方・考え方（言葉による見方・考え方　解説Ｐ12）

国語科は，言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としているため，「言葉による見方・考え方」を働かせることが，国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる。

言葉による見方・考え方を働かせるとは，生徒が学習の中で，対象（事物，経験，思い，考え等）と言葉，言葉と言葉との関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉えたり問い直したりして，言葉への自覚を高めることである。

ウ　国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（解説Ｐ131）

生徒が言語活動の中で「言葉による見方・考え方」を働かせ，　言葉の特徴や使い方などの「知識及び技能」や，自分の思いや考えを深めるための「思考力，判断力，表現力等」を身に付けていくことができるよう，学習指導の創意工夫を図る。

> 【授業改善に関する配慮事項】（解説Ｐ131）
> 単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

○授業改善の視点の例

・主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか。

・対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか。

○参考となる資料

・アクティブ・ラーニング授業実践事例（200 事例）
（https://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/jirei/index.html）

エ　学習指導要領（平成 29 年告示）改訂のポイント（解説Ｐ６～10）

（ア）目標及び内容の構成（解説Ｐ６～８）

国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定し，「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱で整理した。また，「話すこと・聞くこと」，「書くこと」及び「読むこと」の３領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成していた内容を「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」に構成し直した。各構成は以下のとおりである。

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

(2) 情報の扱い方に関する事項

(3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力，判断力，表現力等〕

(1) Ａ　話すこと・聞くこと

(2) Ｂ　書くこと

(3) Ｃ　読むこと

（イ）学習内容の改善・充実（解説Ｐ８～９）

〔知識及び技能〕と〔思考力，判断力，表現力等〕の各指導事項について，育成を目指す資質・能力が明確になるよう内容を改善した。

（ウ）学習の系統性の重視（解説Ｐ９～10）

国語科の指導内容は，系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに，螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し，資質・能力の定着を図ることを基本としている。小・中学校を通じて，〔知識及び技能〕と〔思考力，判断力，表現力等〕の指導事項と言語活動例のそれぞれにおいて，重点を置くべき指導内容を明確にし，その系統化を図っている。

（エ）授業改善のための言語活動の創意工夫（解説Ｐ10）

〔思考力，判断力，表現力等〕の各領域において，どのような資質・能力を育成するかを(1)の指導事項に示し，どのような言語活動を通して資質・能力を育成するかを(2)の言語活動例に示すという関係を明確にし，各学校の創意工夫により授業改善が行われるようにする観点から，言語活動の種類ごとにまとめた形で示した。

（オ）読書指導の改善・充実（解説Ｐ10）

各学年において，国語科の学習が読書活動に結び付くよう〔知識及び技能〕に「読書」に関する指導事項を位置付けるとともに，「読むこと」の領域では，学校図書館などを利用して様々な本などから情報を得て活用する言語活動例を示した。

オ　指導計画作成上の配慮事項（解説Ｐ131～137）

○〔知識及び技能〕に関する配慮事項（解説Ｐ133）

〔知識及び技能〕に示す事項の定着を図るため，必要に応じて，特定の事項を取り上げて繰り返し指導したり，まとめて単元化して扱ったり，学期や学年を超えて指導したりできる。また，「10 分から 15 分程度の短い時間を活用して特定の教科等の指導を行う場合において，教師が，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した中で，その指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されているときは，その時間を当該教科等の年間授業時数に含めることができること」から，機械的な学習にならないよう留意し，「思考力，判断力，表現力等」及び「学びに向かう力，人間性等」についてもバランスよく育成されるよう配慮する必要がある。

○〔思考力，判断力，表現力等〕に関する配慮事項（解説Ｐ133～135）

領域・事項	〔思考力，判断力，表現力等〕に関する指導事項	年	配当時間
Ａ 話すこと・聞くこと	○話題の設定，情報の収集，内容の検討 ○構成の検討，考えの形成（話すこと） ○表現，共有（話すこと） ○構造と内容の把握，精査・解釈，考えの形成，共有（聞くこと） ○話合いの進め方の検討，考えの形成，共有（話し合うこと）	１年 ２年 ３年	15～25 単位時間程度 15～25 単位時間程度 10～20 単位時間程度
Ｂ 書くこと	○題材の設定，情報の収集，内容の検討 ○構成の検討 ○考えの形成，記述 ○推敲 ○共有に関する指導事項	１年 ２年 ３年	30～40 単位時間程度 30～40 単位時間程度 20～30 単位時間程度
Ｃ 読むこと	○構造と内容の把握（説明的な文章） ○構造と内容の把握（文学的な文章） ○精査・解釈（説明的な文章） ○精査・解釈（文学的な文章） ○考えの形成 ○共有		

※読書に関しては，〔知識及び技能〕の「読書」及び〔思考力，判断力，表現力等〕の「Ｃ読むこと」の指導を通して，生徒の読書意欲を高め，日常生活における読書活動につながるよう配慮することが重要である

カ　道徳科などとの関連についての配慮事項（解説Ｐ137）

国語科における道徳教育の指導においては，学習活動や学習態度への配慮，教師の態度や行動による感化とともに，国語科と道徳教育との関連を明確に意識しながら，適切な指導を行う必要がある。

国語で正確に理解したり適切に表現したりする資質・能力を育成する上で，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高めることは，学校の教育活動全体で道徳教育を進めていくための基盤となるものである。また，思考力や想像力を養うこと及び言語感覚を豊かにすることは，道徳的心情や道徳的判断力を養う基本になる。さらに，我が国の言語文化に関わり，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うことは，伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛することなどにつながるものである。

国語科の年間指導計画の作成などに際して，道徳教育の全体計画との関連，指導の内容及び時期等に配慮し，両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。

キ　学習構想案について（学習指導要領・年間指導計画・教科書等を基に作成する）①

※詳しくは，熊本県教育委員会から出されている資料等を参考にすること。

①国語科学習構想案　②熊本の学び関係資料　　※QR コードは Ctrl+クリックでアクセス可

②

ク　教材研究について

単元などの内容や時間のまとまりを見通して，授業を組み立てていく。

○活用する資料

学習指導要領解説（指導事項，言語活動例），教科書，国語科年間指導計画，県学力・学習状況調査，全国学力･学習状況調査，県や国が作成した資料，日常生活との関連（言語活動等）等

○生徒の実態

既習内容の確認，質問紙の実施，県学力・学習状況調査，全国学力･学習状況調査の過年度の問題の実施（本単元で学習する指導事項に関しての把握，本単元を学習する上で身に付けておくべき指導事項に関しての把握）

○学習の系統性

学習指導要領解説の付録４，教科書の既習単元等

○言語活動の創意工夫

学習指導要領の言語活動例，日常の言語生活等

○学習過程の明確化

①めあて，学習課題を明確にする

②自分の考えを形成する

③まとめ，振り返りを確実に行う

【 まとめ 】めあてや課題と照らして行い，課題解決の方法や学習内容をまとめる。ノート等に蓄積し，その後の「学習の手引き」として活用させる。

（例）指導事項を踏まえ，学習内容に沿ってまとめる。登場人物の心情の捉え方，キーワード・中心文・話題・結論の探し方など

【振り返り】学習の成果や課題とその要因，課題の改善方法等を共有させる。課題を自覚することで，家庭学習や次時以降の授業につながる。

（例）以前の考えとの比較と変容，発見，課題解決の工夫，意味付けなど

※参考となる資料

熊本県教育委員会「熊本の学び推進プラン（冊子）」

https://www.pref.kumamoto.jp/site/kyouiku/52360.html

ケ　書写の指導について

（ア）学習指導要領（平成 29 年告示）改訂のポイント

書写に関しては，内容を理解し使うことを通して，各教科等の学習活動や日常生活に生かすことができる書写の能力を理解することが重要である。

（イ）各学年の構成

学年	書写に関する指導事項
第１学年	エ　書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ｱ) 字形を整え，文字の大きさ，配列などについて理解して楷書で書くこと。 (ｲ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して，身近な文字を行書で書くこと。
第２学年	ウ　書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ｱ) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して，読みやすく速く書くこと。 (ｲ) 目的や必要に応じて，楷書又は行書を選んで書くこと。
第３学年	エ　書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ｱ) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ，効果的に文字を書くこと。

（ウ）指導計画の作成と内容の取扱いにおける主な配慮事項

○硬筆及び毛筆を使用する書写の指導

・硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は第１学年及び第２学年で年間 20 単位時間程度，第３学年では年間 10 単位時間程度行うこと。

・毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。

・適切に運筆する能力の向上につながるよう，指導を工夫すること。（毛筆と硬筆を相互

に関連させた指導を工夫すること。）

（エ）学習構想案について（学習指導要領・年間指導計画・教科書等を基に作成する）

※詳しくは，熊本県教育委員会から出されている資料等を参考にすること。

コ　学習評価について（国立教育政策研究所　「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料　中学校国語」による）

○単元の評価規準の作成のポイント（Ｐ38）

中学校国語科においては，次のような流れで授業を構想し，評価規準を作成する。

Step１　・年間指導計画等を基に，単元で取り上げる指導事項を確認する。

Step２　・Step１で確認した指導事項を基に，以下の３点について単元の目標を設定する。

「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」の目標については，基本的に指導事項の文末を「～できる」とし，「学びに向かう力，人間性等」の目標については，当該学年の目標「言葉がもつよさ～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。

・単元の目標を実現するために適した言語活動を，言語活動例を参考にして位置付ける。

Step３　・単元の評価規準を作成する。

「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価規準の設定については，当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する各々の指導事項の文末を「～している」として作成する。ただし，「思考・判断・表現」に関してのみ，指導する一領域を冒頭に「（領域名）において」のように明記して作成する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定については，①粘り強さ②自らの学習の調整③他の２観点において重点とする内容④当該単元の具体的な言語活動の四つの内容を全て含め，単元の目標や学習内容等に応じて，その組合せを工夫し，文末は「～しようとしている」とする。

Step４　・各時間の具体的な学習活動を構想し，単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定する。

Step５　・それぞれの評価規準について，実際の学習活動を踏まえて，「おおむね満足できる」状況（Ｂ），「努力を要する」状況（Ｃ）への手立てを想定する。

○「年間指導計画」に基づいた評価の系統化・重点化（Ｐ48～49）

国語科においては，一つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導することが多い。それは国語科の指導内容が螺旋的・反復的に繰り返しながら資質・能力の定着を基本としているからである。そのため，年間を見通して当該学年の指導目標や単元の評価規準を設定することが重要になる。

※詳しくは，下記リンク他，国立教育政策研究所から出されている資料等を参考にすること。

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_kokugo.pdf

＜参考資料＞

○　文部科学省「中学校学習指導要領解説　国語編」（平成 29 年７月）

○　国立教育政策研究所教育課程研究センター「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料　中学校国語」（令和２年３月）